

| 仙台高等専門学校 | | 開講年度 | 令和03年度 (2021年度) | 授業科目 | 現代社会 | |
|--|---|---|--|---------------------------------|------|--|
| 科目基礎情報 | | | | | | |
| 科目番号 | 0004 | 科目区分 | 一般 / 必修 | | | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 総合工学科 I 類 | 対象学年 | 1 | | | |
| 開設期 | 通年 | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | 間宮陽介ほか『現代社会』（東京書籍）、『現代社会ワークノート』（東京書籍）、『現代社会用語集』（山川出版社） | | | | | |
| 担当教員 | 笠松 直 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | |
| <p>1. 人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。</p> <p>2. 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。</p> <p>3. 現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。</p> | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | | |
| 青年期の意義と自己形成の課題 | 教科書が提示する現代社会と青年期に関する用語・概念を理解し、自分の言葉で説明できる。 | 現代社会と青年期に関する用語・概念を理解し、学習した言葉で説明できる。 | 教科書が提示する現代社会と青年期に関する用語・概念に関する知識が6割に満たない。 | | | |
| 基本的人権と民主主義 | 教科書が提示する日本国憲法と民主主義に関する用語・概念を理解し、自分の言葉で説明できる。 | 日本国憲法と民主主義に関する用語・概念を理解し、学習した言葉で説明できる。 | 教科書が提示する日本国憲法と民主主義に関する用語・概念に関する知識が6割に満たない。 | | | |
| 現代の経済と国民福祉 | 教科書が提示する現代経済と国民福祉に関する用語・概念を理解し、自分の言葉で説明できる。 | 現代経済と国民福祉に関する用語・概念を理解し、学習した言葉で説明できる。 | 教科書が提示する現代経済と国民福祉に関する用語・概念に関する知識が6割に満たない。 | | | |
| 国際社会と国際平和 | 教科書が提示する国際社会と国際平和に関する用語・概念について理解し、自分の言葉で説明できる。 | 国際社会と国際平和に関する用語・概念について理解し、学習した言葉で説明できる。 | 教科書が提示する国際社会と国際平和に関する用語・概念に関する知識が6割に満たない。 | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | |
| 学習・教育到達度目標 4 技術者としての社会的役割や責任を自覚して行動する姿勢 | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | |
| 概要 | 現代社会における諸問題について学ぶことで、社会の中でよりよく生きていくための人文社会的知識・思考方法を身につけることを目指す。 | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 基本的には講義形式で行うが、問題演習、ペアワーク・個人・グループでの口頭発表やレポートなどを取り入れ、学生の積極的な授業参加を促す。 学生は1. 授業前の予習として教科書を読み、2. 日常的に新聞・ニュースを視聴して情報収集につとめ、3. 授業後に学習内容との関連を考察するように。そうした成果は口頭発表・レポートで報告することになる。 | | | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> 選挙権年齢が18歳に引き下げられ、学生諸君は2～3年後には政治に参加することになる。日頃から政治や経済などの社会の動きに関心を持ち、自分の頭で考えて、投票できるようになってほしい。 社会は常に変容し続けている。情勢に対応してゆくための前提知識として、現状を適切に理解することを求めたい。 学生諸君は数年後には社会に出るわけだが、周囲に流されて安易に職業を選択することのないように、自分なりの人生観・職業観を身につけてほしい。 | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 前期 | 1週 | ガイダンス 現代社会の問題点 | 授業の学び方を理解する。 現代社会の問題点について理解できる。 | | | |
| | 2週 | 第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方 | 現代社会と青年期の自己の関わり方について理解できる。 | | | |
| | 3週 | 第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方 | 自己形成と社会との関わり、進路と生きがいの創造について理解できる。 | | | |
| | 4週 | 第1章 青年期と自己形成の課題 2 よりよく生きることを求めて | 古代の哲学と宗教の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかを理解できる。 | | | |
| | 5週 | 第1章 青年期と自己形成の課題 2 よりよく生きることを求めて | 近代の西洋哲学において、現代につながる人間観を理解できる。 | | | |
| | 6週 | 第1章 青年期と自己形成の課題 2 よりよく生きることを求めて | 日本の伝統思想において、日本人が外来思想をどのように受容してきたかを理解できる。 | | | |
| | 7週 | 前期中間試験 | | | | |
| | 8週 | 第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは | 民主政治の成り立ちと世界の政治体制について理解できる。 | | | |
| | 2ndQ | 9週 | 第2章 日本国憲法と民主政治 2 日本国憲法の基本原理 | 日本国憲法の成り立ちと三大原理を理解できる。 | | |
| | | 10週 | 第2章 日本国憲法と民主政治 2 日本国憲法の基本原理 | 日本国憲法における人権の保障について理解できる。 | | |
| | | 11週 | 第2章 日本国憲法と民主政治 2 日本国憲法の基本原理 | 日本国憲法における平和主義と日本の安全保障について理解できる。 | | |
| | | 12週 | 第2章 日本国憲法と民主政治 3 日本の政治機構 | 日本の立法と行政のしくみについて理解できる。 | | |

| | | | | |
|-----|------|--------------------------------|--|-----------------------------|
| 後期 | | 13週 | 第2章 3 日本国憲法と民主政治 日本の政治機構 | 日本の司法と地方自治について理解できる。 |
| | | 14週 | 第2章 4 日本国憲法と民主政治 現代政治の特質と課題 | 日本の選挙制度とその課題について理解できる。 |
| | | 15週 | 前期期末試験 | |
| | | 16週 | 試験返却とまとめ 第2章 4 日本国憲法と民主政治 現代政治の特質と課題 | 世論とマスメディアの役割とその課題について理解できる。 |
| | 3rdQ | 1週 | 第3章 1 個人の尊重と法の支配 個人の尊重と法の支配 | 日本の裁判と裁判員制度について理解できる。 |
| | | 2週 | 第4章 1 現代の経済と国民福祉 経済のしくみ | 資本主義経済の成り立ちとその特質について理解できる。 |
| | | 3週 | 第4章 1 現代の経済と国民福祉 経済のしくみ | 市場経済のしくみについて理解できる。 |
| | | 4週 | 第4章 1 現代の経済と国民福祉 経済のしくみ | 財政・金融の機能について理解できる。 |
| | | 5週 | 第4章 2 現代の経済と国民福祉 変化する日本経済 | 戦後の日本経済の変化について理解できる。 |
| | | 6週 | 第4章 2 現代の経済と国民福祉 変化する日本経済 | 現代の日本経済の課題について理解できる。 |
| | | 7週 | 後期中間試験 | |
| | | 8週 | 第4章 3 現代の経済と国民福祉 豊かな生活の実現 | 消費者問題と労働問題について理解できる。 |
| | 4thQ | 9週 | 第5章 1 国際社会と人類の課題 国際政治のしくみと動向 | 国際政治のしくみについて理解できる。 |
| | | 10週 | 第5章 1 国際社会と人類の課題 国際政治のしくみと動向 | 戦後の国際政治の流れについて理解できる。 |
| | | 11週 | 第5章 2 国際社会と人類の課題 国際経済のしくみと動向 | 国際経済のしくみについて理解できる。 |
| | | 12週 | 第5章 2 国際社会と人類の課題 国際経済のしくみと動向 | 戦後の国際経済の流れについて理解できる。 |
| 13週 | | 第5章 3 国際社会と人類の課題 国際社会の現状と課題 | 国際社会の抱える問題について理解できる。 | |
| 14週 | | 第5章 3 国際社会と人類の課題 国際社会の現状と課題 | 国際社会における日本の役割について理解できる。 | |
| 15週 | | 後期期末試験 | | |
| 16週 | | 試験返却とまとめ | | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 | |
|-------|---------|------|-----------|---|-----|--|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 社会 | 公民的分野 | 人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。 | 3 | 前1,前2,前3,前4,前5,前6 |
| | | | 公民的分野 | 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。 | 3 | 前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14 |
| | | | 現代社会の考察 | 現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。 | 3 | 前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14 |

評価割合

| | 試験 | 課題 | レポート | 合計 |
|--------|----|----|------|-----|
| 総合評価割合 | 70 | 20 | 10 | 100 |
| 用語の理解 | 40 | 10 | 0 | 50 |
| 概念の理解 | 10 | 10 | 0 | 20 |
| 用語の適用 | 10 | 0 | 0 | 10 |
| 概念の適用 | 10 | 0 | 10 | 20 |